



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」 2024年度活動報告書
Issue Date	2025-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94519
Type	report
File Information	reportfy_2024.pdf



文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

2024年度

活動報告書

もくじ

I. 事業概要と実施体制

事業概要	2
実施体制	2

II. 2024年度取組

2024年度実施内容一覧	4
ダイバーシティ研究環境整備のための取組	6
研究力向上・リーダー育成のための取組	19
上位職への積極的登用に向けた取組	23
女性研究者の裾野拡大に向けた取組その他	27

※報告内容に含まれる各種支援の申請者およびセミナー講師等の所属・職位・名称などは、申請時・開催当時のものです。

I. 事業概要と実施体制

事業概要

事業の名称

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

事業の概要

本事業では、北海道内外の大学と企業が連携し、多様な研究人材の活躍による地域活性化に向けて、研究環境の更なる改善と意識改革、キャリアアップと自立に向けた支援、女性リーダー、女性上位職・管理職の増加など、多くの取組を展開している。中でも中核となるのは、連携機関の共通の課題を可視化し、研究と組織変革をリードする「イノベーションコア人材（研究リーダー人材＋大学マネジメント人材）」を育成する取組である。

連携機関と連携し、女性研究者を含む多様な研究者が能力を発揮できる研究環境の更なる整備、多様なリーダー育成と登用、組織の意識改革等の取組への理解浸透を図りネットワークを構築する活動を行っている。

実施体制

連携の体制

北海道内外の6つの連携機関によって「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）」会議を設置（事務局：北海道大学）。2025年3月現在、協力機関数は12を数え、そのうち4機関は連携機関からの推薦によって参画している。

連携機関間で、セミナー等の相互配信の基盤を構築し、全国の先進事例や大学の在り方について考える勉強会等を協力して実施している。その結果、各機関での意識醸成が進み、大学での女性限定公募の実施などの意思決定につながった。

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）

<連携機関>

北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社

<協力機関>

株式会社スペースタイム、株式会社化合物安全性研究所、北海道システム・サイエンス株式会社、雪印種苗株式会社、株式会社山本忠信商店、公益財団法人とかち財団、公益財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）、株式会社ユニアル、国立大学法人北海道国立大学機構小樽商科大学、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画課札幌市男女共同参画センター、株式会社エヌビー健康研究所、遠友ファーマ株式会社（2025年3月現在）

II. 2024年度取組

2024年度実施内容一覧

実施月日	実施内容
4月1日	【北海道大学】令和6年度前期「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」開始(対象者14名)
4月1日	【室蘭工業大学】ライフイベント期にある研究者への支援開始(対象者1名)
4月1日	【帯広畜産大学】教授昇任1名、准教授昇任1名
4月1日	【帯広畜産大学】女性教員3名に前期研究支援員を配置
4月1日	【北見工業大学】ライフイベント期にある教員への研究補助人材支援開始(対象者4名)
4月2日	【北海道大学】女子学生ロールモデル発信～大塚賞受賞者の声～公開(学生限定公開)
4月11日	【北海道大学】「ダイバーシティ・インクルージョン推進に向けた部局等による取組支援プログラム」募集開始
4月25日	【北海道大学】DEIニュースレター7号発行
4月26日	【北見工業大学】次世代研究者のための講演会「私がなぜ研究者の道を選択したか」開催
5月31日	【帯広畜産大学】ダイバーシティ推進セミナー開催
6月7日	【北見工業大学】第1回ダイバーシティ推進室会議開催
6月10日	【北海道大学】「PIを目指す女性研究者による研究会等開催支援」募集開始
6月24日	【室蘭工業大学】女性限定公募(准教授1名)開始
6月25日	【北海道大学】「女性研究者リーダー育成共同研究助成」募集開始
7月1日	【帯広畜産大学】助教2名採用・メンター教員配置
7月2日	【室蘭工業大学】英語論文執筆セミナー「アクセプトへの第一歩!英語論文執筆のAtoZ」開催
7月8日～25日	【アミノアップ】ハサヌディン大学の学生インターンシップ受け入れ
7月22日	【北海道大学】令和6年度後期「研究活動とライフイベント両立のための補助人材支援」募集開始
7月27日	【北見工業大学】オープンキャンパス「リケジョの輪」実施(1回目)
8月7日	【北海道大学】「女性研究者リーダー育成共同研究助成」決定・通知(4名)
8月15日	【帯広畜産大学】女性限定公募開始(獣医学研究部門)
8月20日	【帯広畜産大学】女性優先公募開始(獣医学研究部門)
8月29日	【北見工業大学】ダイバーシティ推進に関する講演会「ジェンダード・イノベーションのためのデータサイエンスと可視化」開催
9月1日	【帯広畜産大学】准教授1名採用
9月10日	令和6年度北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議「第1回業務担当者会議」開催(オンライン会議)
9月11日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.12「文学研究院 准教授 田辺弘子先生」発行
9月20日,21日	【北海道大学】PIを目指す女性研究者による研究会等開催支援「コントラリアン生物学主催シンポジウム 集団における個とは?集団内多様性のダイナミクスを考える」(薬学研究院)開催
9月23日	【北見工業大学】オープンキャンパス「リケジョの輪」実施(2回目)
9月27日	【北海道大学】部局等による取組支援プログラム「移民教員の活用による教員不足の解消と労働力の多様化」(高等教育推進機構国際教育研究部)開催
9月27日	【室蘭工業大学】女性限定公募(助教1名)開始
10月1日	【北海道大学】令和6年度後期「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」開始(対象者11名)
10月1日	【帯広畜産大学】准教授1名採用

実施月日	実施内容
10月1日	【帯広畜産大学】女性教員3名に後期研究支援員を配置
10月9日	【室蘭工業大学】キャリア形成のためのランチタイムセミナー第20回開催
10月12日	【北海道大学】部局等による取組支援プログラム「トランスジェンダーと医療」(文学研究院応用倫理・応用哲学研究教育センター)開催
10月16日	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.13「理学研究院 助教 今布咲子弘子先生」発行
10月25日	【北海道大学】PIを目指す女性研究者による研究会等開催支援「日中月経教育研究のフロンティア:織り交ぜる近代から現代の行き先」(GASP_STUDY研究グループ「生理用品を必要な人に提供できる包括的な社会を目指す!」)開催
10月25日	【北海道大学】部局等による取組支援プログラム「なぜ北大も男だらけなのか」(文学研究院)開催
11月4日	【北海道大学】PIを目指す女性研究者による研究会等開催支援「多様性と孤独・孤立:作業療法と作業科学による公正の追求」(保健科学研究院)開催
11月15日	【北海道大学】パープルリボン講演会「デートDVって知っていますか?～傍観者にならないために～」開催
12月4日	【室蘭工業大学】教職員のためのダイバーシティセミナー2024「地方国立大学におけるダイバーシティ推進をめぐる課題 ～岩手大学での取り組みに携わって～」開催
12月5日	【北海道大学】「上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業」募集開始
12月16日	【北海道大学】令和7年度前期「研究活動とライフイベント両立のための補助人材支援」募集開始
12月18日	【北海道大学】講演会「未来を創る性と健康 プレコンセプションケアから始めるライフサイクルとキャリア設計」開催
12月20日	【北海道大学】部局等による取組支援プログラム「フィールドワークと性暴力・セクシュアルハラスメント:実態調査アンケートの結果報告(第一報)と今後の展望」(Harassment in Field-work (HiF))開催
12月23日	【北海道大学】「上位職を目指す女性研究者のためのメンタリング・シャドウイング研修支援事業」決定・通知(1名)
12月23日	【室蘭工業大学】ダイバーシティ通信第20号発行
1月11日	【北見工業大学】オープンキャンパス「リケジョのWA in WINTER」実施
1月16日	【北見工業大学】ダイバーシティ事業推進に係る役員と女性教員等の懇談会
1月18日,19日	【北海道大学】大学入学共通テスト時の一時保育支援実施
1月21日	【室蘭工業大学】キャリア形成のためのランチタイムセミナー第21回開催
2月1日	【帯広畜産大学】女性教員2名に後期研究支援員を配置
3月	【北海道大学】ロールモデルインタビューFika No.14, No.15
3月7日	【日東電工株式会社】DE&I講演会①開催
3月12日	北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議(KNIT 会議)およびKNIT 勉強会(オンライン会議)
3月14日	【北海道大学】大塚賞交流会開催
3月14日	【室蘭工業大学】ダイバーシティ通信第21号発行
通年	【帯広畜産大学】学長と女性研究者との意見交換会実施(採用・昇任時計7回)
通年	【室蘭工業大学】ライフイベント期のシッター代の補助実施(対象者1名・計5回)
通年	【日東電工株式会社】女性リーダー育成プログラム「FLOWERプログラム」実施

ダイバーシティ研究環境整備のための取組

連携機関全体の取組

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク 業務担当者会議の実施

業務担当者会議は、各連携機関の担当教員等が事業企画・実施のための情報共有や検討をする等を目的に、緊密な情報交換を連携機関全体で実施している。北海道の各地域に拠点を構える連携機関のダイバーシティに関する状況や取組を互いに知ることができ、KNIT 全体の研究環境の向上につながっている。2024 年度は以下の通り、1 回の業務担当者会議を実施した。

< 開催記録 >

実施日	議題
9月10日	・令和6年度各機関取組実施状況及び今後の予定について ・「牽引型」事業終了後の体制について

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク会議（KNIT 会議）および KNIT 勉強会の実施

KNIT 会議

- 日時 2025 年 3 月 12 日
- 場所 オンライン Zoom
- 審議事項 令和 7 年度以降の活動について

審議結果：令和 7 年度以降の活動について、提案どおり「北海道地域におけるダイバーシティネットワーク継続に関する申し合わせ」を承認することとした。

KNIT 勉強会

- 日時 2025 年 3 月 12 日
- 場所 オンライン Zoom
- 講師 入沢 朋子氏
日本航空株式会社 人財戦略部 DEI 推進グループ
- テーマ JAL グループの目指す姿～経営戦略としての DEI 推進～

活動報告

女性をはじめとする多様な人材が活躍する就業・就学環境の整備や、組織における DEI 推進への理解醸成等について学ぶことを目的に、勉強会を実施した。

日本航空株式会社の入沢朋子人財戦略部 DEI 推進グループ長を講師に迎え、同社の DEI 推進に向けた組織体制や先進的な取組、今後の課題等について講演いただき、質疑応答を行った。KNIT 会議委員及び業務担当者等 14 名が参加した。

北海道大学の取組

DEI ニュースレター

ダイバーシティ・インクルージョン推進本部（DEI 推進本部）の活動を広く周知するため、DEI ニュースレターを発行した。ニュースレターでは、特集記事・コラム・イベント情報等を掲載している。

Vol.7 では、特集記事「大塚賞授与式・交流会」、コラム「文学研究院の女性教員・女性教授増加への取り組み」等を掲載した。

● < Vol.7 >

DEI NEWSLETTER 2024 April Diversity Equity Inclusion Vol.07

大塚賞授与式が挙行されました

3月19日(火)、本学教養部において、北海道大学大塚賞授与式が挙行されました。大塚賞は、本学における男女参画事業の一環として、研究者を目指す優秀な女子学生育成のため、2005年(平成17年)に設けられた奨励金制度です。大学院博士課程を当該年度中に修了し、研究者を志す優秀な女子学生に授与されるもので、今回は、学院長(研究科長を含む)からの推薦をもとに審査によって選ばれた10名が受賞しました。授与式には賞金清簿長、大塚家子君が出席しました。

授与式には賞金清簿長、大塚家子君が出席しました。

立に即座に授与されることとあるが、大塚賞を受賞したことが心の支えになっている「しなやかになにを成し遂げる」という思いが、大塚賞を受賞したことに繋がっている。授与式では、授与された大塚賞と授与状を授与された大塚賞を受賞した。授与式では、授与された大塚賞を受賞した。授与式では、授与された大塚賞を受賞した。

DEI NEWSLETTER 2024 April Diversity Equity Inclusion Vol.07

文学研究院の女性教員・女性教授増加への取り組み

令和5年度12月に提出された「北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進計画」を受け、文学研究院では准教授以上の女性教員及び女性教授の増加に取り組んでいます。第4期中期目標期間における中期評価として「准教授以上の女性教員比率25%を目標に、女性教員の比率を上げる。特に女性教授の比率を20%にする。」と定め、その実現のために「女性教授の採用人事を実施すること」という施策を実施することとしました。なお、この施策は任期なしの採用人事とあわせて、毎年最低1名は女性教授が増えるようにする。また、その実現のために「女性教授の採用人事を実施すること」という施策を実施することとしました。なお、この施策は任期なしの採用人事とあわせて、毎年最低1名は女性教授が増えるようにする。また、その実現のために「女性教授の採用人事を実施すること」という施策を実施することとしました。なお、この施策は任期なしの採用人事とあわせて、毎年最低1名は女性教授が増えるようにする。

年度	女性教員比率 (%)	女性教授比率 (%)
令和4年度(2022年度)	16%	24%
令和5年度(2023年度)	16%	24%
令和6年度(2024年度)	16%	24%

文学研究院 講義以上の教員の女性比率 (令和4年度12月～令和5年度4月)

女性教員が2名から8名に
毎年2名、女性准教授が教員へ昇任

文学研究院 講義以上の教員の女性比率 (令和4年度12月～令和5年度4月)

女性教員が2名から8名に
毎年2名、女性准教授が教員へ昇任

令和6年度「研究活動とライフイベントの両立のための補助人材支援」

本支援は、北海道大学に所属する研究者が、出産・育児・介護等のライフイベントと研究活動を両立し、円滑に業務を遂行できるよう、研究者の補助を行う人材の雇用経費を支援するものである。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/sup-program/wl-support/kenkyuhojo/>

支援採択件数

前期	14 件
後期	11 件

パープルリボン講演会「デートDVって知っていますか?～傍観者にならないために～」

- 名称 パープルリボン講演会「デートDVって知っていますか?～傍観者にならないために～」
- 日時 2024年11月15日 11:15～12:45
- 対象者 本学学生、教職員、道内高等教育機関関係者、興味・関心のある方
- 場所 北海道大学中央キャンパス総合研究棟1号館1階会議室
- 参加者数 13名
- 講師 志堅原 郁子
(一般社団法人アウェア認定・デートDV防止プログラム・ファシリテーター)
- 主催 北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

活動内容・報告

デートDVが身近に起こっていること、近年、暴力の形は様々で身体への直接的な危害に留まらず、デジタル暴力も深刻化していること、暴力は加害者によって選ばれていること、そしてその暴力は加害者・被害者を取り巻く社会環境が大きく影響したジェンダー規範に基づいて起こるものであること等が、臨場感を持って語られた。

これまでDV加害者プログラムに携わってこられた志堅原講師からは、実際にあった暴力の事例が紹介され、参加者は加害者・被害者のセリフを代読するなどしながら、暴力の実態や恐ろしさに触れながら、未然に防ぐ方法等を学んだ。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/26075/>



2024 DEIキャンペーン

創基150周年記念事業 北海道大学は2026年に創基150周年を迎えます。

150th

パープルリボン講演会

デートDVって知っていますか?

～傍観者にならないために～

11.15 金 11:15-12:45

昼食持参・飲食OK・対面のみ開催

アクセス
北海道大学中央キャンパス総合研究棟1号館1階会議室

対象者：本学学生、教職員、道内高等教育機関関係者、興味・関心のある方

講演の内容

- 01 ジェンダーに基づく暴力 (GBV)とは
- 02 若い人たちの交際中に起きている暴力:デートDV
- 03 暴力の実際の事例
- 04 自分や友だちのためにできること

申し込みはコチラ→
先着30名限定

氏名不要ですが、人数把握のため、事前申し込みにご協力ください(当日参加可)。

主催 北海道大学
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
Office of Diversity, Equity and Inclusion
Email: office@dei.hokudai.ac.jp

一般社団法人アウェア認定・デートDV防止プログラム・ファシリテーター

志堅原 郁子 講師
(しけんばるのいくこ)

札幌拠点に、ジェンダー平等性の視座から暴力未然防止活動を行う。暴力を選ばない・選ばせない意識と社会環境づくりに軸足を置き、幼児から大人まで対象に主に教育機関で講座を提供している。2004年に性の健康教育「からだの科学」、07年にデートDV防止教育を開始。その後、アウェア認定DV加害者更生プログラムファシリテーター活動に加わる。ジェンダーと性の多様性(SOGI)理解と包摂を大事に、一人ひとりが大切にされる社会の構築を目指している。沖縄県出身。新聞記者を経て米国でジャーナリズム修士号取得。現在、北海道大学非常勤講師。

一般社団法人アウェアとは?

ジェンダー平等・公正社会の実現に向けて、DV・デートDV防止活動を行なう民間教育機関。2002年創設。DV加害者更生プログラム実施に基づく知見から2003年、書籍「デートDV～被害を導く関係をつくる」で「デートDV」という言葉を使って日本で初めて交際の若い人たちに起こっている暴力を紹介した。加害者、被害者、児童虐待防止のプログラムなど各種講座を提供し実施者の養成も行っている。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

プレコンセプションケアから始めるライフサイクルとキャリア設計

- 名称 未来を創る性と健康
「プレコンセプションケアから始めるライフサイクルとキャリア設計」
- 日時 2024年12月18日 11:15～12:45
- 対象者 本学学生、教職員、道内高等教育機関関係者、興味・関心のある方
- 場所 オンライン（Zoom）
- 参加者数 30名
- 講師 蝦名 康彦（北海道大学大学院保健科学研究院教授）
- 主催 北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

活動内容・報告

日本の女性を取り巻く環境と現状について、仕事と健康にまつわるデータ等から、健康管理とダイバーシティの結び付きについてご紹介いただいた。さらに健康課題に向けた考え方や知識として、プレコンセプションケア、適正な体重の維持管理の重要性、将来の妊娠・出産、健やかな更年期・老年期の迎え方、ライフプランとキャリア形成について、産婦人科医としてのご経験や知見を交えお話いただいた。

特に女性は、男性に比べて年齢とともに性ホルモンの分泌量が激変し、多種多様な疾患にかかるリスクが高いこと、月経や更年期症状等に悩まされる要因となっていることが説明された。女性ホルモンの分泌量の変動が大きい時期とキャリア形成・維持・向上や、出産・子育て等のライフイベントが重なると、より身体的・精神的な負担が大きくなるが、実際には通院するなどの具体的な対応や対策を何もしていない方の割合が高いというデータが示された。周りの支援や理解とあわせて、本人のヘルスリテラシーを高める教育の重要性についてもお話いただいた。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/24176/>



創設50周年記念事業 北海道大学は2026年に創設50周年を迎えます。

2024 DEIキャンペーン

未来を創る性と健康

150th

プレコンセプションケアから始める
ライフサイクルとキャリア設計

日程 12月18日（水）

時間 11:15～12:45

場所 オンライン（Zoom）

対象 本学学生、教職員、道内高等教育機関関係者、
興味・関心のある方

先着
100名
参加枠あり

講師：蝦名 康彦
北海道大学大学院保健科学研究院 教授

【ご紹介】産婦人科学における幅広い領域（産科学、婦人科腫瘍学、生殖免疫学など）の研究に従事。現在は、さらに女性の生涯にわたる健康を支えるケアやサポートを担い、妊娠、出産、育児に関連するテーマを中心に、幅広い年代の女性の健康問題、更年期や更年期の健康管理、女性特有のメンタルヘルスケアの研究にも取り組む。

【略歴】2000年北海道大学附属病院助手、2010年神戸大学大学院医学研究科外科系講座産婦人科学分科 講師、2012年助産教授を経て、2020年より北海道大学大学院保健科学研究院教授（助産学/母性看護学/女性医学教室、助産看護学分野）、博士（医学）（北海道大学）

セミナー内容
プレコンセプションケアとは、将来の妊娠・育児などを考えながら男女が、自分たちの生活や健康に向き合うことです。本講演ではもう少し広げて、プレコンセプションケアに含まれる「体重のコントロール」や「生活習慣の改善」などが、人生を通じた健康とキャリア形成にどのように影響を与えるかを解説します。

お申込・詳細はこちら↓

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/24176/>

主催 / 北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部 office@dei.hokudai.ac.jp
文部科学省科学技術・人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究推進特別イニシアティブ（第3期）」

ダイバーシティ・インクルージョン推進に向けた 部局等による取組支援プログラム

本プログラムは、本学構成員（教職員・学生）が、本学構成員がダイバーシティ推進について更に理解を深める機会を創出することを目的とし、学内で開催される DEI に関するセミナー等の実施費用支援を行うものである。2024 年は 4 件の支援を行った。

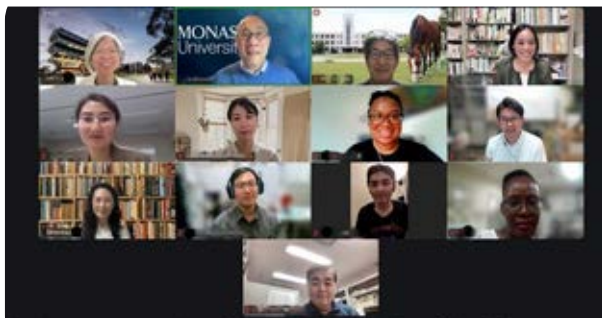
<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/24176/>

<支援実績 (1) >

- 名称 移民教員の活用による教員不足の解消と労働力の多様化
- 日時 2024 年 9 月 27 日 17:00 ～ 19:00
- 対象者 文学研究院に所属する教職員の他、アイヌ・先住民研究センター、社会科学実験研究センター、人間知・脳・AI 研究教育センター及び文学事務部に所属する教職員、並びに上記以外の文学院参画教員（文学院教授会構成員）
- 場所 オンライン Zoom
- 参加者数 36 名
- 講師 Dr Sun Yee Yip (Monash University, Australia)
齊藤英介（モナッシュ大学・オーストラリア）
- 主催 高等教育推進機構国際教育研究部

実施報告書より抜粋

本セミナーでは、近年、教員不足解消の観点からも重視されている移民教員の活用について、多言語・多文化国家であるオーストラリアを事例に研究をされている、Dr Sun Yee Yip（モナッシュ大学）を講師に迎え、学校という職場環境において、多様な背景を持った人々が自らの能力を十全に発揮し、互いに心地よく働く上で必要な環境の整備や資質能力・態度について、参加者とともに検討した。Dr Yip の講演に先立ち、オーストラリアの学校教育および教員養成の概況について、自身も教員養成に携わる齊藤英介先生（モナッシュ大学）にお話をいただいた。講演後の質疑応答に多くの時間を割くことができたため、参加者には、すでに多文化国家として一定の蓄積があるオーストラリアの学校においてさえ、移民教員が自身の能力が適切に認められないことに、葛藤や疎外感を感じていること、まただからこそ職場環境はもちろん、組織および関係者の意識改革が必要であることを、それぞれの立場から考えるきっかけを提供できたと考える。



高等教育推進機構国際教育研究部研修事業
ダイバーシティ・インクルージョン推進本部共催
科研費「多様性を志向する教師教育の国際比較研究」23K22244 共催

HARNESSING IMMIGRANT TEACHERS TO ADDRESS TEACHER SHORTAGES AND DIVERSIFY THE TEACHING WORKFORCE

移民教員の活用による教員不足の解消と労働力の多様化
Dr Sun Yee Yip (Monash University, Australia)

日時：2024年9月27日 17:00-19:00
オンライン (ZOOM) 開催
講演は英語で行いますが、簡単な日本語解説あります
The lecture will be given in English.

Teacher shortages is a global concern that has dominated the educational policy discourse internationally in recent years. This has prompted some governments to prioritise visas for overseas teachers and encourage immigrants trained as teachers to work in schools. However, the prevailing expectations of specified desired background, habits and pedagogical ideas of how a teacher should be, act, and understand their work and place in society have made the professional transition significantly more challenging for the immigrant teachers who did not fit into this frame. In this lecture, I will draw on the insights from my research on teacher diversity and immigrant teachers. In particular, I will share the findings of a qualitative study that involves in-depth interviews that explore the professional transition experiences of Asian immigrant teachers in Australia. Findings revealed the differential, diverse and stratified experiences of Asian immigrant teachers as they negotiate their identities, navigate adaptation and establish belongingness in their new teaching context.

ご講演に先立ち、齊藤英介先生（モナッシュ大学・オーストラリア）にオーストラリアの教育・教員養成の概況をお話いただきます。

申し込み方法：
9月25日（水）までにQRコードもしくは下記のリンクからお申し込みください。
<https://forms.gle/ESHNP439AUGDL328>
前日までに参加方法をお送りします。

お問い合わせ：北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部
青木麻衣子 (maoki@ioe.hokudai.ac.jp)

<支援実績 (2)>

- 名称 トランスジェンダーと医療
- 日時 2024 年 10 月 12 日 13:30~16:30
- 場所 文系共同講義棟 8 番教室 / オンライン Zoom
- 参加者数 会場 47 名 / オンライン 85 名
- 主催 文学研究院応用倫理・応用哲学研究教育センター

実施報告書より抜粋

本シンポジウムではトランスジェンダーの当事者でもある哲学の専門家と、フランスの生命倫理に関する専門家からの講演、さらに LGBT 当事者でもあるコメンテーターとの質疑応答を通じて、トランスジェンダー当事者のニーズや、当事者が直面している課題について認識を深める場を提供することができた。

本シンポジウムの開催はトランスジェンダーの当事者の方々についての理解と支援が広がる契機となったと思われる。またこのシンポジウムでは従来の性別二元論に基づく枠組みを超えた議論が交わされ、性別に関する固定観念について批判的に検討することができた。



北海道大学大学院文学研究院 応用倫理・応用哲学研究教育センター主催

トランスジェンダーと医療



Transgender and Medical Care 2024

公開シンポジウム
フェス? 2024
道大大学 2024

従来、性同一性「障害」と捉えられてきたトランスジェンダーは、多様な性のあり方の一つとして捉えられるようになり、また2023年10月には性同一性障害特例法に遡及判断が下って、性別登録変更のための「不妊化要件」は無効とされました。また今年7月に広島高裁は手術なしでの性別変更を事実上認めました。しかしトランスの人々が差別される現状はかわらず、トランスの人々をめぐる様々な問題が解決されたわけではありません。今回のシンポジウムでは「医療」、特に不妊化要件と生殖医療に着目することで、「トランスジェンダーの身体」について考えてみたいと思います。

講演 トランスジェンダーの身体と医療・制度
高井ゆと里 群馬大学情報科学部教員
性別の変更と生殖医療
小門 穂 大阪大学文学研究科教員

コメンテーター 満島てる子 (7丁目のワグザールーム店長、さっぽろレインボープライド実行委員)

司会 蔵田 伸雄 (北海道大学文学研究院教授、応用倫理・応用哲学研究教育センター長)
斎藤 巧弥 (札幌国際大学経営学部教員、応用倫理・応用哲学研究教育センター共同研究員)

10/12

13:30~16:30 (開場13:00)

参加無料

北海道大学
文系共同講義棟 8番教室
札幌市北区北10条西7丁目

対面とオンライン(ZOOMミーティング)にて開催します。オンライン参加のみ事前申込が必要です。リンクまたはQRコードからお申込みください。

オンライン定員: 300名
申込締切: 10月11日(金) 13時迄

申込フォーム
<https://forms.gle/89zQZr0RPhudct8>






ダイバーシティ・インクルージョン推進室
Office of Diversity and Inclusion

本シンポジウムは北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部「ダイバーシティ・インクルージョン推進」趣旨に沿った取組等による活動支援プログラム」の支援を受けています。



北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

お問い合わせ
Email: caep@let.hokudai.ac.jp
URL: <http://caep-hu.sakura.ne.jp/>
Twitter: @caep_hu

＜支援実績 (3)＞

- 名称 北海道大学大学院文学研究院主催 FD 講演会
なぜ北大も男だらけなのか
- 日時 2024 年 10 月 25 日 13:00 ～ 14:30
- 対象者 全学の教職員・学生
- 場所 北海道大学クラーク会館
- 参加者数 155 名
- 講師 矢口 祐人（東京大学副学長）
- 主催 北海道大学大学院文学研究院

実施報告書より抜粋

『なぜ東大は男だらけなのか』（集英社新書）の著者である矢口教授に、日本のトップ大学における教員と学生間の女性・男性比率とその課題について、東京大学及び北海道大学のデータ等を提示しながら講演いただいた。講演後の質疑応答の時間では、積極的な意見交換がなされ、参加者が女性と男性や、都市と地方における教育の機会の不均衡など、誰もが平等・公平・公正に過ごせる大学づくりについて、主体的かつ具体的に考える機会を提供することができた。



北海道大学大学院文学研究院主催 FD 講演会

Lecture
Japanese
with English
Japanese
English

なぜ北大も男だらけなのか

『なぜ東大は男だらけなのか』著者の矢口教授が日本のトップ大学における教員と学生間の女性・男性比率とその課題について論じます

10/25(金) 12:30 ~ 14:30
北海道大学 クラーク会館

先着 200名まで

矢口祐人 (東京大学副学長)

主催 大学文学研究部 / 北海道大学教職員・学生 一般の方

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

主催 大学文学研究部
共催 タイパシフィックインターナショナル推進本部

<支援実績 (4) >

- 名称 フィールドワークと性暴力・セクシュアルハラスメント：実態調査アンケートの結果報告（第一報）と今後の展望
- 日時 2024年12月20日 16:30～18:00
- 場所 メディア棟（大学院国際広報メディア・観光学院）407会議室
- 参加人数 15名
- 主催 共同研究グループ Harassment in Fieldwork（HiF）

実施報告書より抜粋

本セミナーは、フィールドワークにおける性暴力やセクシュアルハラスメントについての認識を高める機会を提供したと考える。質疑応答・ディスカッションでは、参加者から、アンケート結果を聞いて感じた率直なコメントや、有益な情報の提供、このテーマを考える上で重要と考えられる指摘など、活発な議論が行われた。

本セミナーにはベテラン教員・研究者から、まだ調査を準備している段階の修士学生まで、様々な段階の研究者が集った。本セミナーは、参加者に、上述のような「フィールドワーク規範」を見直し、自分自身のフィールドワークへの向き合い方だけでなく、指導学生に対しても自らのリスク回避の失敗談や、当事者としての経験（あるいは当事者となる寸前だったヒヤリ・ハット）の共有をすることの重要性を伝えられたと推察する。



フィールドワークと性暴力・セクシュアルハラスメント

実態調査アンケートの結果報告（第一報）と今後の展望



日時：2024年12月20日（金）
16：30～18：00
場所：メディア棟407会議室
参加無料

本セミナーでは、共同研究グループ「フィールドワークとハラスメント（Harassment in Fieldwork、HiF）」が2002年実施したオンラインアンケートの結果（第一報）を発表します。

フィールドワークの方法は学問分野によって多様ですが、このアンケートでは、「資料やデータの収集のために、研究者自らが研究室や研究機関を離れ、研究対象とする地域や団体などに赴き調査を行う調査方法・研究活動」と定義づけました。したがって、文献の収集や教員の引率のもとでの実習や巡検なども含んでいます。

フィールドワーク経験者だけでなく、これから調査実習やインタビュー調査・参与観察などを予定している学生やそのような学生を指導している教員の方も是非ご参加ください。

問い合わせ先：太友瑠璃子 rotomo@imc.hokudai.ac.jp
共催：北海道大学DOI推進本部
協力：メディアコミュニケーション研究院 ハラスメント防止委員会

大学入学共通テスト時の一時保育支援

大学入学試験関連業務により本学の教職員が休日出勤を行う場合の保育負担を軽減し、教職員が能力を発揮しやすい環境を整備することを目的に、一時保育支援を行うものである。

2024年度は1名の教職員（男性）が利用し、2歳児1名の保育を行った。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/25694/>

- 日時 2025年1月18日、1月19日

「ベビーシッター利用育児支援（入試業務に係る特別支援）」

- 対象者 大学入学共通テスト当日業務に携わる、本学の教員・職員が養育する0歳から小学校3年生までの児童
※健全育成上の世話を必要とする（身体障害者手帳・療育手帳等の交付を受けている）場合は、小学校6年生までの児童も対象とする
- 保育場所 自宅

「北大病院保育園ポプラにおける一時保育支援」

- 対象者 大学入学試験当日業務に携わる、本学の教員・職員が養育する未就学児（生後6か月以上）
- 保育場所 北海道大学病院保育園 ポプラ（函館キャンパスについては応相談）

室蘭工業大学の取組

ライフイベント期の研究者への研究支援員配置

出産・育児・介護等のライフイベント期の女性研究者に対し、研究活動の補助を行う支援員を配置することにより、ライフイベント期にある研究者が研究活動を継続することができる環境を整備し、女性研究者の研究力向上を図っている。

2024年度は、育児や介護を行っている女性教員1名に対して支援を行った結果、当該教員の科学研究費助成事業への応募が採択される等の成果が上がった。

ニュースレター「ダイバーシティ通信」

本学の取り組みについてニュースレターを発行し、北海道地域の大学や高等学校を中心として情報発信を行うとともに、本学が開催する講演会について連携機関等に周知を行うことにより相互参加を図っている。また、令和2年度より女子高校生に本学の教育・研究をより具体的に知ってもらうことを通じて女性研究者の裾野拡大を図ることを目的として、本学女子学生へのインタビュー記事を掲載している。

●ダイバーシティ通信第20号（2024年12月23日発行）

第20号 2024年12月

ダイバーシティ通信

【室長就任挨拶】

男女共同参画推進室長 ひと文化系領域教授 清末 愛紗

2024年4月に男女共同参画推進室長に就任しました。憲法学とジェンダー法学を専門にしています。とりわけ、憲法24条という、婚姻の自由を保障し、家族に関連する立法の憲法規範を規定する条文の研究をしています。

2011年10月に本学に着任してから比較の早い段階で、認知症を患っている母の介護を担い始めました。それ以来、男女共同参画推進室が進めてきたライフイベント期の支援事業に大きく支えられ、仕事と介護を両立させてきました。正直に書くと、同居介護中は授業を行うことすら困難なときが多々あり、これから授業が始まるのにどうすればいいのだろうとパニックになりそうになったこともありました。母の要介護度が上がり、医師や看護婦、ケアマネジャー等から、一人での同居介護はこれ以上無理だと言われる状態もしばしばありました。介護者である私自身が母の施設入居を受け入れるまでに少々時間がかかりましたが、その間なんとか乗り切ることができたのは、本学のライフイベント期の支援事業をはじめとする職場での支え、近隣の友人たちの支えがあったからです。本学に支援事業がなかったら、私は仕事を続けることができませんでした。実際に何度も辞めるしかないと思いました。母の死後は札幌在住の義母の介護も始まりましたが、こちらの方も本学の支援事業を通して、仕事と両立することができました。

こうした経緯があるため、私は（私）という一人の研究者をしっかりと支えてくれた本学の事業に対して強い感謝の気持ちを抱いています。その「恩返し」と経験の共有のために、男女共同参画推進室の業務に携わりたいと考えました。専門分野という意味でも業務内容が大きく重なりますので、知見を活かして、本学の男女共同参画事業を盛り上げていく所存です。誰もがささげに能力をフルに生かすことができる職場をめざします。

女子学生インタビュー

理工系の室蘭工業大学で、生き生きと学生生活を送る女子学生たちにインタビュー！

進学を決めた理由や、現在学んでいることなどについてお話しいただきました。将来の目標に向けて前向きに学が夢を見て、「理工系って面白そう!」「私もやってみたい!」と感じる中高生の皆さんが一人でも増えることを期待しています。

室工大を志望した理由

私は小さい頃から教員になりたいという夢があり、教員免許を取ることもでき、かつ多様な社会経験を積むことができそうな大学ということで室工大を志望しました。実際に進学してからは、大学の図書館でアルバイトをしたり、大学祭実行委員の委員長として活動したりする中で大学教員や企業の方々や協賛する機会があり、勉強や研究に加え社会経験の面でも充実した大学生活を送っています。小さい頃は引っこ込み思想家でしたが、大学でこのような経験を積むうちに社会性やリーダーシップも身につけることができ、自分でも成長を実感しています。元々は出身の大学で大学に進学しようと考えていました。しかし色々考えた結果、室工大に進学し、今はこちらに来て正解だったと思っています。室工大で勉強と研究を進める中で、数学者として大学の先生になるという新しい目標ができ、別の大学に進学して

博士前期課程 情報電子工学系専攻 システム情報コース2年 中津山 望さん

として大学の先生になるという新しい目標ができ、別の大学に進学して

時点で研究論文が1本雑誌に掲載されており、1本は受理済み、さらにもう1本の論文を投稿中です。これらは共同研究者らとの共著なのですが、数学者としては単著（1人で論文を書くこと）が目標なので、今は自分自身で問題点を見つけていくことを模索しています。

今までの研究成果をもとに、今年はスペインとポランドの研究集会でそれぞれ発表もすることができました。スペインは暑くて大変でしたが、様々な国の研究者と交流で大変よい刺激を受けました。今はまだ英語にそれほど自信がないのですが、研究者たちはそれぞれの国のなまりで堂々と英語を話していたのが印象に残っており、私も頑張ろうと思います。

女子高校生へのメッセージ

工業系の大学という、女子は

女子学生にはぜひ、やりたいと思ったことを貫き、室工大に進学してほしい。

附属図書館共催 英語論文セミナー（オンライン）

附属図書館と共同で開催する、英語論文セミナー「アクセプトへの第一歩」英語論文執筆のA to Z」を令和6年7月2日（火）オンラインにて開催し、日本語編は27名、英語編は9名が参加しました。

講師はサンクロス株式会社よりGarry Heterick 氏（代表）をお迎えし、英語論文執筆する上での重要なポイントや注意点を等について、昨年度同様英語編と日本語編に分けて講義いただきました。

アンケートでは、「満足」もしくは「ほぼ満足」と答えた回答者が82%であり、「理解しやすい内容だった」「一般的な論文執筆のアイデアに加えて、最新の動向が盛り込まれていた」などの感想が寄せられました。

ダイバーシティ通信 第20号（2024年12月）

国立大学法人 室蘭工業大学 男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット（LIFRO）

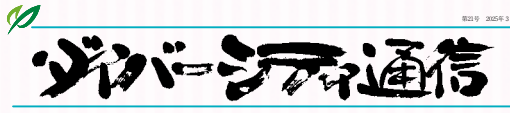
〒050-8505 北海道室蘭市北沢町1番1号 TEL: 0143-48-5018 / FAX: 0143-48-5032 E-mail: lifro@morion.ac.jp URL: <https://www.morion.ac.jp/lifro/>

本学の男女共同参画推進室を支援してくださる個人・企業からの寄付金を受け付けております。詳しい手続きは下記URLをご覧ください。
<https://www.morion.ac.jp/gai-gai-shi-kai.html>
400の寄付金を受けたい。お願ひ申し上げます。

本誌および本学の男女共同参画推進室についてのご意見・ご要望をLIFROまでぜひお寄せください。

女性研究者 支援ユニット Unit for Female Researchers

●ダイバーシティ通信第21号（2025年3月14日発行）



第21号 2025年3月

女子学生インタビュー

室蘭工業大学を志望した理由
小学生の頃から住宅展示場に行くのが好きで、建築に興味を持っていました。高校生になり、建築を職業にしたいと考え、大学を調べたところ、北海道で建築を学べる大学の1つが室蘭工業大学でした。建築を目指すことに對して家族からの反対はありませんでしたが、室蘭工業大学の女子学生の少なさについては心配されました。それでも「行きたいから行く」という強い意志で進学を決めました。

建築への興味と進路の変化
当初は意図的に興味がありました。大学の授業を通じて自分に向いていないと感じ、構造系へ転向しました。現在は建築の商業や地盤に対する計算を行う構造系の分野で学んでいます。卒業研究では「構造ヘルスモニタリング」に取り組んでおり、建物に設置した加速度センサーを用いて、建物の状態をモニタリングする技術を研究しています。この技術により、地震発生時の建物の被害状況を正確に把握し、被害状況の早期評価に役立てることで、迅速な復興につなげることが目指しています。タイの留学先では別の分野に取り組んでいましたが、大学院でもこの研究を続ける予定です。

学士修士一貫教育を活かしたタイ留学
大学院進学を考えたのは2年生の前期です。当初は進学を考えていませんでしたが、授業や先輩の話を通じて学びを深めたいと思うようになりました。海外大学院に申し込しましたが、家族の希望も考慮し、学士修士一貫教育の仕組みを活かしてタイ留学を選択しました。留学前にナバルや台湾、カナダを訪れましたが、タイでは「住む」経験を通じて、自分が日本をよく知らないことに気づかされました。

現地では「国際関係論」を学び、貧困や発展についての基礎知識を得るとともに、ロジスティクス・サプライチェーンのプロジェクトにも参加しました。また、交通工系の授業では事故防止策を考える課題に取り組み、先進国と発展途上国の違いを学び、日本の抱えた環境を再認識しました。さらに、長期休暇には、大洪水の被災地で家の再建を手伝うボランティア活動に参加したほか、伝統的な民族の家庭でのホームステイを通じて異文化を直接体験するなど、貴重な機会を得ました。

将来の目標
「世界での仕事を果たす」という自然とした夢があります。留学を通じて得た「誰かのためになる」実感は大事にしたいので、建築の知識を生かすかはまだ決めていませんが、まずは日本について深く学び、説明できるようにになりたいです。そして、将来は、海外で経験を積みながら、夢の実現に向けて進んでいきたいと考えています。





未来を築く：建築と国際視点で広がる夢

■教職員のためのダイバーシティセミナー2024■

「地方国立大学におけるダイバーシティ推進をめぐる課題～若手大学での取り組みに携わって～」

講師：海壽 佳子氏（若手大学 副学長）
日時：令和6年12月4日（水）10:30～12:00
場所：オンラインセミナー
対象：本学の学生、大学・研究機関の研究者、技術者及び職員
その他ダイバーシティに関心のある方



令和6年12月4日（水）、教職員のためのダイバーシティセミナー2024をオンライン開催しました。この講演会は、本学の教職員を主な対象に男女共同参画推進の意識啓発を目的として、年1回開催しています。

本年度は、講師に若手大学副学長 海壽 佳子氏をお招きし、「地方国立大学におけるダイバーシティ推進をめぐる課題～若手大学での取り組みに携わって～」と題して、若手大学でのワークライフバランス支援、女性研究者の積極的な採用、次世代を担う学生に向けてなどの取り組みについてご講演いただきました。当日は23名の参加があり、「海壽先生ご自身の経験談が非常に説得力があり、やりそうだなと考えさせられました。ベテランの男性教員こそ驚くべき講演だったと思います。」「年代や職種等問わず、より多くの人々が意識共有を促りながら参画していかなければ進んでいけないことを改めて実感しました。」などの感想が寄せられました。

■キャリア形成のためのランチタイムセミナー第20回■

「研究とライフのキャリア選択」

講師：中西 和嘉氏（国立研究開発法人物理・材料研究機構（NIMS）高分子・バイオ材料研究センター主幹研究員）
日時：令和6年10月9日（水）12:10～12:50
場所：室蘭工業大学教育・研究1号館 A317室
対象：本学の学部学生・大学院生 他



違う分野の研究をすることになったとしても今までの研究で得た経験は決して無駄ではなく、現在の研究に活かすことができること、研究者としていつまでも研究を続けることができること、自分の輪の中を見つけていくことなど、ご自身の経験をお話いただきました。

当日は23名の参加があり、「研究員の面白さを初めて感じて自分の興味を持つ分野を深めることに魅力を感じた」「迷ったときにどうするべきか、行動のヒントになることが開けてくれた」などの感想が寄せられ、今後のキャリア形成を考える機会となりました。

■キャリア形成のためのランチタイムセミナー第21回■

「軌道変更と修正の連続 ―その時にやりたいことを―」

講師：涌向 明子氏（基礎機械コンサルタント株式会社 北海道支店 地盤技術課 課長）
日時：令和7年1月21日（水）12:10～12:50
場所：室蘭工業大学教育・研究1号館 A317室
対象：本学の学部学生・大学院生 他



出身：育児を経て復職した後感じた女性技術者を取り巻く環境の変化、技術士の資格取得を通じて改めて気付いた事業と仕事の両立のために企業が協力しあうことの大切さ、技術者の仕事の楽しさ等をご自身の経験を踏まえてお話いただきました。

当日は23名の参加があり、「技術者にならないと技術者になることはできないという言葉がとても印象に残った。当り前のことが心に留めておきたい」「女性目線で技術者として働く難しさについては詳しく聞いたことがなかったので、初めてこのようなお話を聞き、新しい目標での考え方が深まったと感じた」等の感想が寄せられ、好評のうちに終了しました。

ダイバーシティ通信 第21号（2025年3月）
国立大学法人 室蘭工業大学 男女共同参画推進室 女性研究支援ユニット（UFR）
〒050-8585 北海道室蘭市大字町1-9 TEL: 0143-46-5018 / FAX: 0143-46-5022
E-mail: ufr@muroran-u.ac.jp URL: https://muroran-u.ac.jp/gu_dfr/

本誌および本学の男女共同参画等についての
ご意見、ご要望もUFRまでぜひお寄せください。

女性研究者
支援ユニット
Unit for female researchers

本学の男女共同参画推進室に定めてくださる個人・企業からのご寄付を受け付けております。
詳しくは下記URLをご覧ください。
https://muroran-u.ac.jp/gu_dfr/kokuken/

ぜひご協力をお願いします。お問い合わせ先はUFRです。

北見工業大学の取組

ダイバーシティ推進に関する講演会

学内の意識改革を図ることを目的とし、ダイバーシティ推進や男女共同参画推進に係るFD講演会を実施した。

- 名称 ダイバーシティ推進に関する講演会
「ジェンダード・イノベーションのためのデータサイエンスと可視化」
- 日時 2024年8月29日 10:30～12:00
- 対象者 北見工業大学教職員及び参加申込みのあった学外者
- 場所 オンラインWebex
- 参加者数 60名
- 講師 お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系 教授 伊藤 貴之 氏
- 実施主体 主催：北見工業大学ダイバーシティ推進室
協賛：日本工学アカデミー北海道支部・東北支部

活動内容・報告

令和元年度から毎年ダイバーシティ推進に関する講演会を実施しており、今年は第6回目である。

今回はオンライン開催としたため、学外からの参加者も多く、広くダイバーシティの推進に寄与する機会となった。

講師の伊藤 貴之氏から、性差による様々な問題や傾向について可視化されたデータによって示され、バイアスをもたらす影響と原因解決のために必要な視点なども紹介された。

講演後のアンケートには、データサイエンスの観点からダイバーシティについて考えるきっかけとなり、興味深く拝聴したとの声が多く寄せられた。具体的には「女性だけでなく男性の不利益の問題について知ることができた」、「データを可視化することで新たな発見があった」等があった。

これらの回答からみても、本講演会は参加者にとって、新たな視点からダイバーシティへの理解を深め、意識改革を促進する貴重な機会となったと言える。



日東電工株式会社の取組

DE&I 講演会①

- 日時 2025 年 3 月 7 日 10:30～12:00
- 対象者 管理職必聴＋一般希望者
- 実施主体 日東電工株式会社 日本エリア人財・マネジメント部 人事グループ

活動内容・報告

国内の従業員の男女比率は男性：女性が約 8:2 と、女性の割合はまだまだ少ない。社内で女性はマイノリティにあたるなか、年代ごとに訪れる女性の健康課題についてマジョリティの男性にも広く知ってもらうことを目的に、職場で求められる配慮や今まで触れづらかった「月経」、「不妊治療」、「更年期」など産婦人科医の専門的な知見も交えた講演会（パネルディスカッション）を開催。

管理職は必須で聴講することとし、リアルタイムで約 700 名が視聴するなど「まずは知ってもらう」目的は達成できた。事後アンケートでも「生物学的に女性は防ぎようのないハンディを抱えており、職場での配慮を意識しようと思った」など、講演会開催について前向きなコメントが多く寄せられた。



休業者の復職支援

- 日時 2025 年 4 月～
- 実施主体 日東電工株式会社 日本エリア人財・マネジメント部 人事グループ

活動内容・報告

近年育休取得者が増加しているが、育児休業中に会社状況を知る手段が不足しており、復職への不安が課題となっていた。このことから、復職支援の一環として、休業中の会社状況を把握・共有できるように社内掲示板に掲載されている社内情報等を、休業中の全従業員が閲覧できるアプリを導入し、25 年 4 月からの運用開始を決定した。

研究力向上・リーダー育成のための取組

北海道大学の取組

PIを目指す女性研究者による研究会等開催支援

本事業は、本学の女性研究者が女性研究者の研究力の向上とリーダースキルの強化ならびに研究ネットワークの拡大を目的とし、自らがリーダーとして推進する優れた共同研究を計画する女性研究者への研究費助成を行うものである。今年度は3件の支援を行った。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/24780/>

<2024 年度支援実績 (1)>

- 名称 コントラリアン生物学主催シンポジウム
 集団における個とは？集団内多様性のダイナミクスを考える
- 日程 2024 年 9 月 20 日～ 9 月 21 日
- 実施責任者 薬学研究院 横井佐織助教

支援報告書より抜粋

今回のシンポジウムは、講演、フラッシュトーク、ポスター発表、ワークショップを開催した。準備に際し、会場をおさえるところから、シンポジスト招聘、支援員雇用、軽食やコーヒープレークの手配、現地参加の呼びかけ、会場設営までをほぼ一人で実施し、その仕事量の多さを知ることができた。そのなかで、周囲に仕事を割り振ることの大切さと、その内容や仕事を割り振る相手の見極めの重要性を感じた。

研究面では、これまではコロナ禍の影響もあり、北大内での研究者との交流があまりなかったのだが、今回のシンポジウムで薬学部以外の教員（理学部生物や地球環境科学院）と多くのコミュニケーションをとることができた。今後、共同研究の可能性を探っていきたい。

PIとしての自立には、今まで以上に他の研究者とのネットワークが必要であり、新しい技術や視点を取り入れる必要がある。今回のシンポジウム開催により、これらの強化を図ることができた。また、参加者から応援の言葉を多くいただき、これからの自信につながった。



<2024 年度支援実績 (2)>

- 名称 シンポジウム
日中月経教育研究のフロンティア：織り交ぜる近代から現代の行き先
- 日程 2024 年 10 月 25 日 13:00-16:00
- 実施責任者 教育学研究院 張思銘専門研究員

支援報告書より抜粋

本研究会開催は、以下のような多岐にわたるリーダーシップスキルの向上、研究の発展に繋がるネットワーク構築・強化、そして PI としての自立に大きく貢献した。

1. 研究会の開催によってどのようなリーダースキルが向上したか
研究会全体の進行をまとめ、また、メンバーをまとめ上げる経験を通して、リーダーシップを発揮する能力が養われた。
2. 自らが中心となって進める研究の発展につながるネットワークの構築・強化にどのような効果があったか
中国と日本の月経観に関する研究会開催は、単なる学術的な交流にとどまらず、日中両国の研究者の間のネットワーク構築を促進し、研究の発展と社会貢献に繋がる重要な機会となった。
3. PI としての自立にどのように寄与したか
本研究会開催を通して、リーダースキルを向上させること、また、ネットワークを構築・強化させることで、PI として必要な資質を磨き、PI としての自立に大きく寄与した。



<2024 年度支援実績 (3)>

- 名称 国際共同シンポジウム
多様性と孤独・孤立：作業療法と作業科学による公正の追求
- 日程 2024 年 11 月 4 日 9:30~19:30
- 実施責任者 保健科学研究院 高島理沙講師

支援報告書より抜粋

■リーダースキルの向上

本シンポジウムの開催を通じ、リーダースキルの向上が以下の点で実感されました。

- ・コラボレーション能力
- ・ネットワーキングスキル・プロジェクトマネジメント能力

■ネットワークの構築・強化

今回のシンポジウム開催は、研究の発展を目指すうえでのネットワーク強化においても大きな意義がありました。

- ・国際的ネットワークの拡大
- ・社会的影響力の強化

■PI としての自立への寄与

シンポジウムの企画・運営を自ら担当したことは、PI としての自立を目指す上で以下のように大きな支えとなりました。

- ・プロジェクトの主導経験
- ・研究の発展に必要な国際的視点の充実



研究交流活性化に向けた機会の提供

ネットワーク内の研究交流の活性化や、共同研究等における好事例の共有を通し、リーダー育成に取り組むことを目的に、北海道大学において開催される研究発表・研究者交流の機会を、広く連携機関に共有・提供した。

日時	名称	会場
2024年9月6日(金)9:00～	第10回北大・部局横断シンポジウム 「若手による異分野融合研究の創成」	北海道大学医学部フラテホール ほか(ハイブリッド開催)
2024年10月6日(日)～ 10月10日(木)10:00～19:00	「全国キャラバン 3QUESTIONS 北海道地区編」	北海道大学フード&メディカル イノベーション国際拠点

女性研究者リーダー育成共同研究助成

女性研究者の研究力の向上とリーダースキルの強化ならびに研究ネットワークの拡大を目的とし、自らがリーダーとして推進する優れた共同研究を計画する女性研究者への研究費助成を行うものである。2024年度は9件の申請があり、4件の研究テーマの採択を決定した。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/25069/>

研究課題	研究代表者	共同研究者所属機関
新規エンドソームの形成過程に関する超微構造学的解析	釜崎 とも子 特任助教 医学研究院	北海道大学
初期地球の陸上環境における生命誕生へと至るリン脂質の化学進化条件	篠崎 彩子 助教 理学研究院	名古屋大学
大学生の創造的自己が学生生活への適応に与える影響に関する研究	小坂 淑子 講師 学生相談総合センター	北海道大学
高温CO2ヒートポンプシステムの効率化とガスクーラーの最適化に向けた研究	劉 洪芝 助教 工学研究院	北見工業大学

上位職への積極的登用に向けた取組

室蘭工業大学の取組

教職員のためのダイバーシティセミナー 2024

教職員のダイバーシティに対する意識向上をめざしたセミナーを毎年開催しており、2024年度の開催状況は以下の通りである。

- 日時 2024年12月4日 10:30～12:00
- 対象者 室蘭工業大学の教職員、学生、一般
- 場所 オンライン
- 参加者数 30名
- 講師 岩手大学 副学長 海妻 径子氏
- 実施主体 室蘭工業大学男女共同参画推進室

教職員のためのダイバーシティセミナー2024

地方国立大学におけるダイバーシティ推進をめぐる課題
～岩手大学での取り組みに携わって～

日 2024年12月4日(水) 会 **オンライン開催**
時 10:30～12:00 場 **※事前申込制**

プログラム

- 開会挨拶(10:30～10:35)
室蘭工業大学 学長 松田 瑞史
- 講演(10:35～11:35)
地方国立大学におけるダイバーシティ推進をめぐる課題
～岩手大学での取り組みに携わって～
岩手大学 副学長 海妻 径子氏
- 質疑応答(11:35～11:55)
- 閉会の挨拶(11:55～12:00)
室蘭工業大学 理事・副学長 桃野 直樹

講師
海妻 径子 氏
(かいづま けいこ)

**岩手大学
副学長
ダイバーシティ推進室長**

対象
全教職員
本学の学生、大学・研究機関の研究者、技術者及び職員
その他ダイバーシティに関心のある方
※ご参加の方は下記URLまたはQRコードの申込フォームより12/3(火)までにご登録ください。

<https://events.saito.ac.jp/2024/12/04/1030-1200/>
<https://forms.office.com/r/202412041030-1200>

お問い合わせ
お申込み

室蘭工業大学男女共同参画推進室
TEL 0143-46-5018
E-mail ufr@muroran-it.ac.jp
URL https://www.muroranit.ac.jp/ge_ufr/

活動内容・報告

本年度は、講師に岩手大学副学長 海妻 径子氏をお招きし、「地方国立大学におけるダイバーシティ推進をめぐる課題 ～岩手大学での取り組みに携わって～」と題して、戦前から研究者を輩出しているお茶の水大学時代の学生研究室で子どもにミルクをあげながら洋書を読み、研究しという先輩たちの姿を見てきたことが今でも原動力となっていること、また岩手大学でのワークライフバランス支援・女性研究者の積極的な採用・次世代を担う学生に向けて等の取り組みについてご講演いただいた。講演後の質疑応答では、「理系女子を増やすためには？」との問いに岩手大学では「工学ガールズ」というグループが活動して（小中学校にて理科実験）広めていること・進路指導の先生や親などに理解してもらうこと等ご教示いただき、参加者との活発な意見交換がなされた。

当日は本学教職員及び執行役員のほか、30名の参加があり、参加者からは「海妻先生ご自身の経験談が非常に説得力があり、やはりそうだよなと考えさせられました。ベテランの男性教員こそ聴くべき講演だったと思いました。」「年代や職種等問わず、より多くの人々が意識共有を図りながら参画していかなければ進んでいかないと改めて痛感しました。」等の感想が寄せられ、盛況のうちに終了した。



帯広畜産大学の取組

学長と女性研究者との懇談会

本学のダイバーシティ推進に関して、執行部との意見交換により意識醸成を図ることに加えて、女性研究者の上位職への積極的登用ならびにキャリアマネジメントの一環として、学長との懇談会を実施した。

- 名称 学長と女性研究者との懇談会
- 日時 2024年4月1日 他6回
- 対象者 帯広畜産大学で新規採用・昇任した教員
- 対談者 学長 長澤 秀行
- 実施主体 帯広畜産大学ダイバーシティ推進室

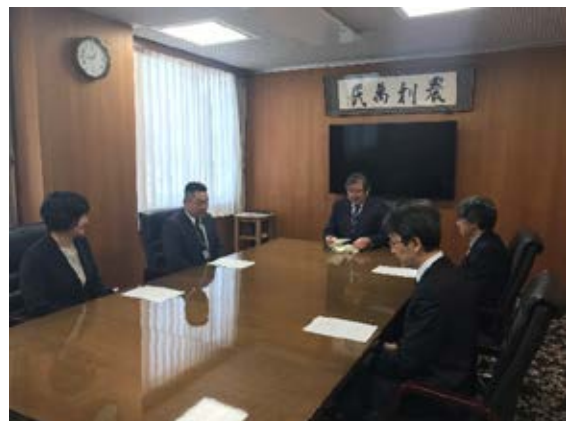
活動内容・報告

帯広畜産大学では、新規採用および学内昇任した教員と学長との懇談会を随時実施している。令和6年度は、新規採用となった教員7名（うち女性5名）および昇任した教授4名（うち女性1名）ならびに准教授5名（うち女性1名）に対し、長澤学長から本学で実施するダイバーシティ関連制度の説明があり、その後、ダイバーシティ関連の課題や要望等について意見交換を行い、ダイバーシティを意識した研究環境を実現するための意識醸成を図った。

対談した教員からは、本学のダイバーシティに関する考え方や関連する支援制度について理解することができたとの感想があった。

なお、帯広畜産大学では、女性研究者の登用を進めており、女性研究者比率は本事業採択前の13.5%（平成30年度末）から19.4%（令和6年度末）に上昇している。

- 昇任した教授（写真左）・准教授（写真右）と長澤学長（両写真の奥）との懇談の様子



北見工業大学の取組

ダイバーシティ事業推進に係る役員と女性教員等の懇談会

女性教員が大学の研究推進戦略を理解し研究マネジメントの視点を獲得するとともに、本学のダイバーシティ推進活動の推進に向けた意見交換を行うため、学長と女性教員等の懇談会を実施した。

- 名称 ダイバーシティ事業推進に係る役員と女性教員等の懇談会
- 日時 2025 年 1 月 16 日 15：00 ～ 16：45
- 対象者 北見工業大学所属女性教員及びダイバーシティ推進室員
- 場所 北見工業大学第 2 会議室
- 参加者数 14 名
- 実施主体 北見工業大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

まず、川村副学長から本学ダイバーシティ推進室の今年度の取組、総合型選抜における女子特別枠の実施、コスモスプロジェクトによる全女性向けの取組について紹介があった。

引き続きダイバーシティ推進室員である青木 愛美准教授より、現在取り組んでいる研究についてのプレゼンがあり、研究対象である英国作家メアリ・ロウスの作品について、原文や絵を引用しながら解説があった。

その後は学長も交えて、近年の学生の傾向、女子学生を含めた志願者増に向けた取組等について積極的に意見交換が行われた。



日東電工株式会社の取組

女性リーダー育成プログラム（FLOWERプログラム）

- 期間 2024 年 6 月～ 2025 年 3 月
- 対象者 係長クラスの女性
- 参加者数 17 名（日本エリアグループ会社含む）
- 実施主体 日東電工株式会社 日本エリア人財・マネジメント部 人事グループ

活動内容・報告

Nitto グループでは女性人財のキャリアの幅を広げることを目的に、FLOWER プログラムを 2022 年より実施。経営幹部や上司、人事が一体となり対象者のキャリア開発支援を行うことで、本人が今まで気づいていなかった自身の可能性に気づき、組織で活躍できる人財として個々の新たなチャレンジにつながることを目指している。

今年度は 3 年目の開催となり、過去の卒業生との交流会など女性同士のネットワークを構築する機会を設けている。卒業生が受講生の社内メンターに立候補するケースも増えており、FLOWER プログラムの社内認知度向上とともに女性活躍を象徴する良い流れの風土が醸成されつつある。



女性研究者の裾野拡大に向けた取組・その他

北海道大学の取組

女性研究者ロールモデルインタビュー「FIKA」の発信

女性ロールモデル発信の取組として、大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（以下 CoSTEP）と DEI 推進本部が連携して企画した。

CoSTEP が教育・実践活動の一環として企画・執筆・公開している北海道大学の魅力を発信するウェブマガジン『いいね! Hokudai』カテゴリ【ようこそ先輩】にて、2024 年度は 4 本の記事を掲載した。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/cat-role/>

2024年度FIKA記事

一生かけて取り組む、誰も知らない研究テーマとともに	田辺弘子先生(文学研究院 准教授) [FIKA No.12]
悩んだ先にあった海外での大学院生活自分を納得させるまであきらめないと決めた物理の道	今布咲子先生(理学院 助教) [FIKA No.4]
分析技術を武器に今の自然を知る	滝沢侑子先生(低温科学研究所 准教授) [FIKA No.14]
動物と関わりながら研究者として歩む道	唄花子先生(農学研究院 助教) [FIKA No.15]



北海道大学大塚賞交流会

- 名称 北海道大学大塚賞 * 交流会
- 日時 2025 年 3 月 14 日 12:00 ~ 13:00
- 場所 北海道大学事務局 2 号館 1 階 中会議室 A
- 参加者数 12 名：大塚 榮子名誉教授、過去受賞者（本学教員）、令和 6 年度受賞者
- 主催 ダイバーシティ・インクルージョン推進本部

* 北海道大学大塚賞：北海道大学における男女参画事業の一環として、研究者を目指す優秀な女子学生育成のため、平成 17 年に設けられた奨励金制度

活動内容・報告

令和 6 年度北海道大学大塚賞では、研究者を目指す優秀な女子学生 10 名が受賞者として選ばれた。授与式では、寶金清博総長、大塚榮子名誉教授、高橋彩理事・副学長、矢野理香ダイバーシティ・インクルージョン推進本部副本部長列席の下、寶金総長より賞状が授与された。

DEI 推進本部では、授与式終了後に受賞者と、大塚名誉教授、過去に大塚賞を受賞された本学教員との交流会を企画・実施した。

交流会では、はじめに矢野副本部長の挨拶、各受賞者の紹介が行われ、その後立食形式での懇談を行った。食事を楽しみながら和やかな雰囲気の中で会話も弾み、受賞者同士の研究者ネットワークの広がりに繋がった。また、グループ毎に大塚名誉教授・矢野副本部長との懇談の時間も設けられ、ゆっくりと話をすることのできる貴重な機会となった。

交流会全体を通して、女子学生に対して多様なキャリアパスとロールモデルを提示することができ、大変盛会のうちに終わることができた。

<https://www.dei.hokudai.ac.jp/archives/26940>



女子学生ロールモデル発信～大塚賞受賞者の声～公開

活動内容・報告

研究者を目指す優秀な学生として大塚賞受賞者のみなさんを後輩の良きロールモデルとして示し、女性の大学院進学・博士課程進学を促進するために、“受賞者の声”として動画を作成した。

なお、動画は北海道大学の学生に限定し公開している。

内容	自己紹介 研究の概要 博士課程進学を考えている後輩へのメッセージ 他
動画の長さ	一人当たり約5分
動画メンバー	大塚先生のメッセージ 2024年度受賞者 10名 2023年度受賞者 10名 2022年度受賞者 9名 2021年度受賞者 9名 2020年度受賞者 6名

室蘭工業大学の取組

キャリア形成のためのランチタイムセミナー

女性研究者の裾野拡大をめざし学生を対象に行うランチタイムセミナーの2024年度の開催状況は以下の通りである。

- 名称 キャリア形成のためのランチタイムセミナー 第20回
- 日時 2024年10月9日 12:10～12:50
- 対象者 室蘭工業大学の学部学生・大学院生 他
- 場所 室蘭工業大学教育・研究1号館 A317室
- 参加者数 23名
- 講師 国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS）
高分子・バイオ材料研究センター主幹研究員
中西 和嘉氏
- 実施主体 室蘭工業大学男女共同参画推進室

キャリア形成のためのランチタイムセミナー第20回

キャリア形成のためのランチタイムセミナーは、企業や大学等の研究機関で活躍する女性研究者や若手技術者を対象に開催し、学生が今後のキャリアプランを考えるための情報となる機会を提供するものです。

「研究とライフのキャリア選択」

講師
国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS）
高分子・バイオ材料研究センター主幹研究員
中西 和嘉氏

2002年室蘭工業大学大学院理学系研究科修士課程を修了後、2006年同大学大学院理学系研究科で博士（理学）の学位を取得。千葉大学助手、助教を務めるとともに日本学術振興会特定領域研究者に選任し、カナダアルバータ大学に留学して研究に従事。東北大学講師を経て2013年から国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS）に採用後、2021年から現職。現在は主に「分子機能に関する研究開発」に従事。

日時 令和6年10月9日（水）12:10～12:50
場所 室蘭工業大学教育・研究1号館 A317室
対象 本学の学部学生・大学院生 ※事前申込制
締切 令和6年10月8日（火）
お弁当は付きませんが
お持込みでの飲食は可能です

申込・問合せ
室蘭工業大学 男女共同参画推進室
申込URL <https://forms.office.com/r/UJLZL8Wdh6h>
QRコードでもお申込み可能です →
TEL 0143-46-5018
E-mail u-muroran-h-ac.jp
URL http://u-muroran-t.ac.jp/ge_ufr

活動内容・報告

講師には国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS） 高分子・バイオ材料研究センター主幹研究員の中西和嘉氏をお招きし、違う分野の研究をすることになっても今までの研究で得た経験は決して無駄ではなく、現在の研究に活かすことができていること、違う分野の研究に挑戦した時は、がむしゃらに研究に没頭しほぼ研究のみに時間を費やしたこと、研究者としていつまでも研究を続けることができることやいつまでも学び続けられる喜び、自分軸での幸せを見つけていくこと等、ご自身の経験をお話いただいた。

当日は23名の参加があり、「修士課程と博士課程の学生に求められるものの違いは？」との学生からの質問に「博士課程に学生には、与えられるだけではなく自分から発信して行動してほしい」とのアドバイスをいただいた。「研究職の面白さを初めて感じて自分の興味を持つ分野を深めることに魅力を感じた」「迷ったときにどうするべきか、行動のヒントになることが聞けて良かった」等の感想が寄せられ、好評のうちに終了した。



キャリア形成のためのランチタイムセミナー

- 名称 キャリア形成のためのランチタイムセミナー第21回
- 日時 2025年1月21日 12:10～12:50
- 対象者 室蘭工業大学の学部学生・大学院生 他
- 場所 室蘭工業大学 教育・研究1号館 A317室
- 参加数 39名
- 講師 基礎地盤コンサルタンツ株式会社
北海道支社 地盤技術部 課長 酒向 明子氏
- 実施主体 室蘭工業大学男女共同参画推進室

活動内容・報告

今年度2回目のランチタイムセミナーでは、基礎地盤コンサルタンツ株式会社北海道支社地盤技術部課長の酒向明子氏を講師として招いた。酒向氏には、2010年に離職し、出産・育児を経て復職した後、感じた女性技術者を取り巻く環境の変化、技術士の資格取得を通じて改めて気付いた家庭と仕事の両立のために家族が協力しあうことの大切さ、技術者の仕事の楽しさ等をご自身の経験を踏まえてお話しただいた。39名の参加があった。学生から出された「家庭と仕事を両立させるには？」との質問に対し、酒向氏は「キャリアプランを考えておくこと。若いころからいくつかのパターンで自分の年表を作り、それに向かって努力すること」と助言的な回答をされた。参加者アンケートを通して、「技術を知らないと言葉を売ることができないという言葉がとても印象に残った。当たり前なことだが心に留めておきたい」「女性目線で技術者として働く難しさについては詳しく聞いたことがなかったので、初めてこのようなお話を聞き、新しい目線での考え方が深まったと感じた」等の感想が寄せられた。参加者にとって、今後のキャリア形成のあり方を考える機会となった。



キャリア形成のための ランチタイムセミナー第21回

キャリア形成のためのランチタイムセミナーは、企業や大学等の研究機関で活躍する女性研究者や女性技術者をゲストにお招きし、学生が今後のキャリアプランを考えるために参考となる情報を提供するものです。

「軌道変更と修正の連続 —その時にやりたいことを—」

講師
基礎地盤コンサルタンツ株式会社
北海道支社 地盤技術部 課長

酒向 明子氏

技術士(建設部門)・一級土木施工管理技士

2000年に室蘭工業大学工学部建設システム工学科を卒業。非正規雇用で経験を積み、2005年に基礎地盤コンサルタンツ株式会社へ入社。2010年に退社し第1子・第2子を出産。
2017年に建設業界へ復帰。2018年には基礎地盤コンサルタンツ株式会社に契約社員として再入社。
2022年に正社員となり現在(北海道支社・地盤技術部 課長)に至る。
地盤調査のプロフェッショナルであり、土木(地盤)と家族をこよなく愛する中1・小5の母。

日 時	令和7年1月21日(火)12:10～12:50
場 所	室蘭工業大学教育・研究1号館 A317室
対 象	本学の学部学生・大学院生 ※事前申込制
締 切	令和7年1月20日(月)

申込・お問い合わせ

室蘭工業大学 男女共同参画推進室

・申込URL <https://forms.office.com/r/gPeGAUXQgR>
QRコードでもお申込み可能です ⇒
0143-46-5018

・TEL ufr@muroran-it.ac.jp

・E-mail https://u.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/

・URL

お弁当は付きませんが飲食は可能です。
※香りの強いものはご遠慮ください。

帯広畜産大学の取組

ダイバーシティ推進セミナー

女性研究者のすそ野拡大・キャリアマネジメント促進の一環として、子育て中の女性教員による仕事と家庭の両立についての体験談や、研究支援員制度の活用方法等について紹介いただき情報交換する場を設けた。

- 名称 令和6年度ダイバーシティ推進セミナー
- 日時 2024年5月31日
- 対象者 帯広畜産大学の教職員
- 講演者 人間科学研究部門 中馬いづみ准教授
- 実施主体 帯広畜産大学ダイバーシティ推進室

活動内容・報告

今年度は女性教員や若手教員のワークライフバランス実現や研究環境向上を目的としたダイバーシティ推進セミナーを開催した。はじめにダイバーシティ推進室の川島室長から北海道国立大学機構におけるライフイベントに関する休業・休暇制度等およびその際に利用できる研究支援制度について説明を行った。続いて、現在小学生のお子さんを養育中の人間科学研究部門・中馬いづみ准教授より、着任時からこれまでの研究環境およびワークライフバランスについての体験談や、研究支援員制度の活用方法等について具体的なエピソードを踏まえて紹介頂いた。本セミナーを通じ、ライフイベントに関する休業・休暇制度だけでなく、本学にはどのような支援制度があるのか、またどのように活用できるか等、今後のダイバーシティ環境の整備・推進につながる情報共有の場となった。



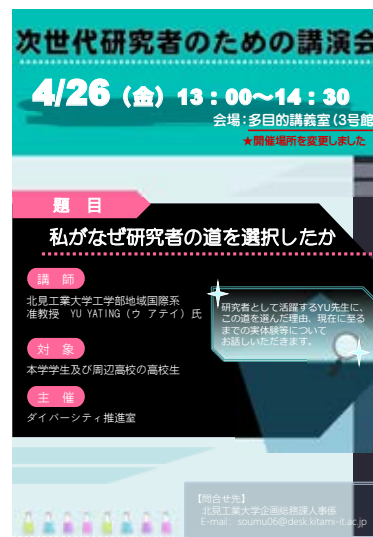
講師の人間科学研究部門・中馬いづみ准教授

北見工業大学の取組

次世代研究者のための講演会

社会で活躍する若手研究者に自身の体験を交えて研究者生活を語っていただくことで、本学学生及び周辺高校の生徒に研究及び研究職の魅力を理解してもらうための講演会を開催した。

- 名称 次世代研究者のための講演会「私がなぜ研究者の道を選択したか」
- 日時 2024 年 4 月 26 日 13:00～14:30
- 対象者 北見工業大学の学生及び周辺高校の高校生
- 場所 北見工業大学多目的講義室
- 参加者数 59 名
- 講師 北見工業大学工学部地域国際系
准教授 YU YATING 氏
- 実施主体 北見工業大学ダイバーシティ推進室



活動内容・報告

本学教員として活躍する若手研究者である YU YATING 氏から、学生時代から研究者になるまでの道のり、当時の心境や環境について具体的に説明していただいた。

修士・博士課程に進学したきっかけや、当時の研究内容、研究室での出来事、研究者になってからの生活、ライフイベントへの対応等について紹介された。

参加学生は研究者になるまでのリアルな過程を知ることができ、大変参考になったようであった。特に講演内で紹介された研究者の 1 日のスケジュールは、学生が研究者の働き方について具体的なイメージを持つ一助となった様子である。

今年度は本学学生のみならず、周辺高校の生徒 13 名の参加もあり、講演後には高校生からも活発な質疑応答があった。終了後のアンケートでは今後の進路選択の参考になったという声が多く、研究者のすそ野拡大に資する有意義な講演会となった。



オープンキャンパス リケジヨの輪

女性研究者裾野拡大の第一歩となる女子高校生の理系進学を促進を目的に、本学女子学生による自身の研究活動の紹介や相談対応を通じて、工業大学への進学に対する不安解消及び学生生活について理解を得るための企画を実施した。

- 名称 オープンキャンパス リケジヨの輪
- 日時 2024 年 7 月 27 日 15:00～16:00
2024 年 9 月 23 日 15:00～16:00
- 対象者 北見工業大学オープンキャンパス参加者
- 場所 北見工業大学 A105 講義室
- 参加者数 7 月 27 日 13 名
9 月 23 日 13 名
- 実施主体 北見工業大学ダイバーシティ推進室



活動内容・報告

本学の大学院に在籍する女子学生が自身の研究紹介、サークル活動やアルバイト、友人との旅行などの大学生活などを高校生や同席した保護者に分かりやすく発表を行い、その後参加者との質疑応答を実施した。高校生や保護者からは研究内容の詳細や、現在取り組んでいる研究テーマと将来就きたい仕事との関係、またアパートや寮などの住環境についての質問があった。女子学生が各質問に対して実体験を交えた回答により、本学での女子の学生生活の実態が理解でき安心した様子であった。

アンケートからも「地域の特徴を活かした研究をしていて楽しそうだった」、「女子学生の学生生活やアルバイト事情について知ることができた」などの感想があり、女子学生が少ない工業大学への進学に対する不安解消、及び学生生活への理解の一助となった。



リケジョの WA in WINTER

女性研究者すそ野拡大へと繋げる活動として、小学6年生～中学3年生の女子児童・生徒を対象とし、本学女子学生が講師となり、実験・実習をサポートしながら理科や工学の楽しさを知ってもらう機会として初めて開催した。また、体験時間中には保護者向け説明会を実施した。

- 名称 リケジョの WA in WINTER
- 日時 2025 年 1 月 11 日 10:00～12:00
- 対象者 小学6年生～中学3年生の女子児童・生徒
- 場所 北見工業大学 A102 講義室
オホーツク農林水産工学連携研究推進センター実験室 1、情報端末室 1
- 参加者数 参加者 13 名 (保護者 8 名)
うち中学 1 年生 7 名 中学 2 年生 4 名 中学 3 年生 2 名
- 実施主体 北見工業大学企画総務課広報戦略係



活動内容・報告

「ハッカの蒸留と抗酸化試験」と「プログラミング体験～ホームページを作ろう～」の2つのテーマに分かれて実施し、本学女子学生が体験をサポートしながら、見慣れない実験器具を扱ったり、自分好みのHPを作成するなど、楽しみながら工学に触れていただいた。

参加者の体験中には保護者説明会を実施し、女子学生の活躍や就職状況などを説明し、終了後には各会場に移動して体験する生徒の様子をご覧いただいた。

実施後のアンケートでは、参加者からは「見るだけでなく実験を体験することができ、理科や科学に興味があった。」「学校では学べないような、将来にも役立ちそうなことを教えてもらったのでまた参加したい。」などの声が寄せられ、保護者からは「思っていたよりも理工系分野で女性が必要とされていると感じた」、「女性が工学分野に少ない理由に興味を持った」などの感想があった。

参加者に理科や工学に興味を持ってもらうだけでなく、保護者にも“リケジョ”の育成について関心を持っていただくイベントとなった。女子学生の少ない工学部への進学に対する不安解消の一助となるとともに、女性研究者すそ野拡大の第一歩となる工学部進学を検討するきっかけとなったと考えられる。

また、体験のサポートを行った女子学生へ実施したアンケートでは「リラックスした状態で楽しんでもらえるよう、柔らかい雰囲気作りを心掛けた。」「器具や装置にたくさん触れてもらい、実験の楽しさを伝えられるよう意識した。」「教えることの難しさを実感した。」など、さまざまなことに心掛けたことが窺え、参加者と年代が近い女子学生の協力が和やかで楽しめるイベント体験を提供でき、本学女子学生にとっても普段関わることのない中学生と交流する貴重な機会となった。



株式会社アミノアップの取組

ハサヌディン大学の学生インターンシップ受け入れ

医薬品を取り巻く問題を解決するために必要なスキルと知識を備えた高レベルな医療従事者を訓練することを目的とし、インドネシア ハサヌディン大学と弊社の間で短期間のインターンシッププログラムを確立した。本プログラムでは毎年3～4名の学生を弊社が受け入れることとなっている。2023年度に実施したインターンシップは学生に好評価を得ており2024年度にも継続してインターンシップが実施された。

- 名称 ハサヌディン大学 - アミノアップ インターンシッププログラム
- 日時 2024年7月8日～7月25日
- 対象者 ハサヌディン大学薬学部・大学生
- 場所 株式会社アミノアップ～中央実験室、品質管理室、工場等
- 参加者数 学生3名、引率教員1名
- 実施主体 株式会社アミノアップ

活動内容・報告

本プログラムでは個々の学生の教育と将来のキャリア形成に必要な実践的なスキルの習得を目指しており、弊社での健康機能性食品の研究開発、営業、製造、品質保証、品質管理業務の現場について各部門の担当者を講師としてOJTを交えた形式での研修を行った。加えて昨年度に学生から要望にあった「他の企業への訪問」に応えるべく、医薬品等の臨床、非臨床試験評価を実施している企業の協力のもと施設見学を行った。

最終日には学生の研修報告会を開催し、本プログラムで学んだことについて発表してもらった。その中で、本プログラムは学生ではなかなか経験できない現場での業務を体験できる良い機会であり是非次年度も継続してほしいという意見をいただいた。弊社としても国外の学生の意見、視点は多様性に関する気付きになる部分も多いため、相互協力体制を維持し次年度以降も継続して実施していきたい。



Knit a network
for diversity and inclusion toward innovation

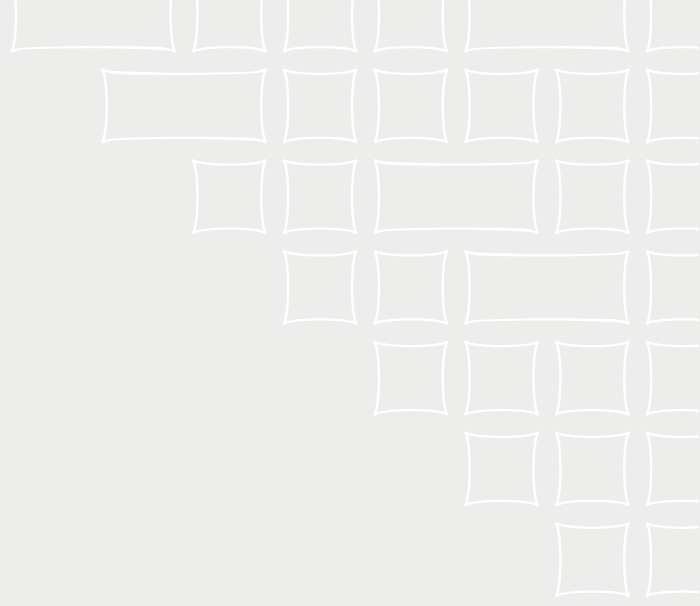
文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

**2024 年度
活動報告書**

発行：2025 年 3 月

発行者：北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク
(北海道大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見
工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社)

お問い合わせ：knit@synfoster.hokudai.ac.jp



Knit a network
for diversity and inclusion toward innovation

